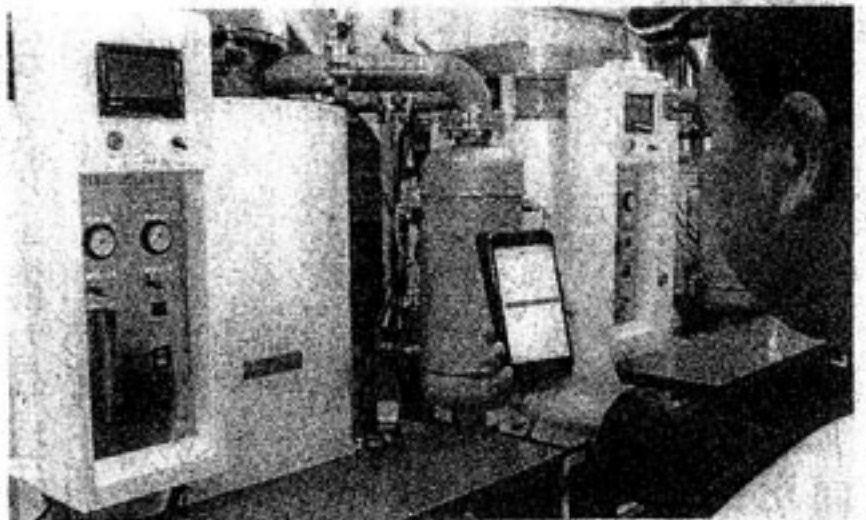


「IoT」導入 工程を遠隔管理 岡谷熱処理工業 効率化目指し



焼き戻し炉稼働状況などをスマートフォンで確認できるシステムを導入した岡谷熱処理工業

金属熱処理の岡谷熱処理工業(岡谷市)は、工程の効率化を目的に、あらゆる機器を「インターネットでつなぐ」「IoT(モノのインターネット)システムを導入した。

表面処理を安定させる焼き戻し炉5基で、従業員がスマートフォンで工程を遠隔管理できる。ネットワーク上でデータを管理するクラウド・コンピュータリングの仕組みも取り入れた。

焼き戻し炉5基では、炉内の温度や真空度、使用電力量などをスマホで常時確認できる。地震などの非常時には遠隔操作で運転を停止し、漏電などの危険防止につながる。

同社には部品の集配車が9台あり、従業員が出先で受け取り次第、写真、顧客が希望する硬さなどのデータをスマホで入力。クラウド技術を活用して、同社の事務所で情報を共有できる。受け取った部品をどの炉に振り分けるかを判断し、工場での迅速な作業につながる。

以前は手書きだった受注票

県内情報リンク

★八十二銀行が来月から女性職員の職服を一新



八十二銀行(長野市)は来年1月4日、女性職員の職服を19年ぶりにリニューアルする=写真。顧客の信頼感を得られるデザインを意識しつつ、動きやすさや機能性を重視した。衣替えが不要なオールシーズンタイプとし、個々の着こなしや体調に合わせて、新たに導入した紺色のジャケットやシャツを選ぶ。ブラウスは半袖と長袖に加えて七分袖を作った。リボンは、同行のロゴをイメージした四角柄を取り入れ、赤と青を基調とした2色。妊婦用も作った。

★県信組がホームページを一新へ



県信用組合(長野市)は26日、ホームページ(HP)を一新する=写真。全面リニューアルは3年ぶり。閲覧者がパソコン、タブレット端末、スマートフォンの

外装に細かな溝 高級筆ペン

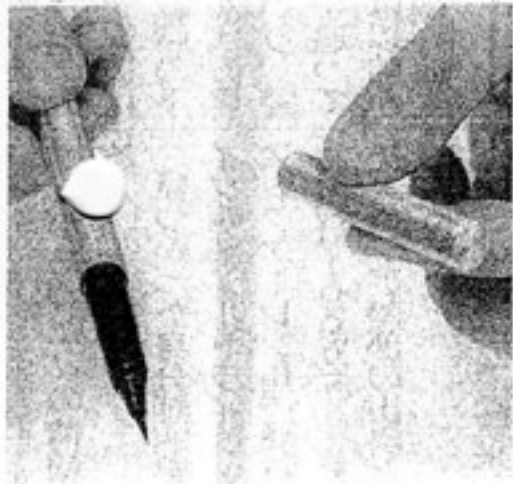
金属部品加工などの丸安精機製作所(諏訪市)は、外装に細かな溝を刻んだ高級筆ペンの開発に着手した。墨汁メーカー、開明(さいたま市)の協力で開発し、強みとする外装部品の切削加工技術で高級感のあるデザインに仕上げ

筆先は開明の支援で作る。外装の模様や色の違いで複数のラインアップを用意する。

丸安精機製作所の自社製品ブランド「ローレツ」の第1弾として、来春の商品化を目指す。

同社はカメラやオーディオ部品の外装加工を手掛け、金属などに田口大輔と別名「ローレツ」の

安精機製作所 商品化へ みの切削加工技術生かす



諏訪市などをつくる「SUWAブランド推進委員会」が昨年、デザイナーの視点をものづくりに生かそうと、県内外の数人が丸安精機製作所の工場内を見学する機会を設けた。その際、外装の加工技術を高級筆ペンに活用する提案を受け、採用した。

価格は1万円以上に設定する予定で、贈答用などの需要を見込む。同社の長峰偉徳(ダイレクター)は「以前から自社製品が欲しいと思っていた。外装部品加工の技術を使い、さまざまな商品分野に展開したい」としている。

西沢邦治社長は「一つ一つを熱処理後に丁寧に検査するため、どうしても時間はかかる。IoTなどでできるだけ効率化する必要がある」としている。

県内「オーナー企業」

帝国データ 都道府県別

代表者と筆頭株主が同じ「オーナー企業」は「オーナー企業」は県内に8519社あり、調査対象の1万社余の79.8%を占める。21日、帝国データバンク県内支店のまとめで分かった。全国平均を2.5割上回った。割合は都道府県別で高い方から20番目。同社松本支店の割合は建設業の1割、製造業の1割、サービス業の1割、小売業の1割、飲食業の1割、医療業の1割、教育業の1割、不動産業の1割、運輸業の1割、情報通信業の1割、金融業の1割、公共事業の1割、その他業種の1割を占める。代表者と筆頭株主が同じ「オーナー企業」は、経営者との対話が重要とされている。

県内レギュラー132円90銭

2円20銭高3週連続今年最高値

経済産業省資源エネルギー庁が21日に発表した県内のガソリン1リットル当たりの平均小売価格は、レギュラーが132円90銭、ハイオクは139円90銭、E5は144円30銭、E10は140円40銭、と上昇した。冷え込みの要が増加し、店頭小売価格の

19日 90銭
19日 30銭
12